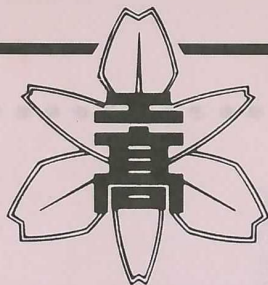


同窓会報



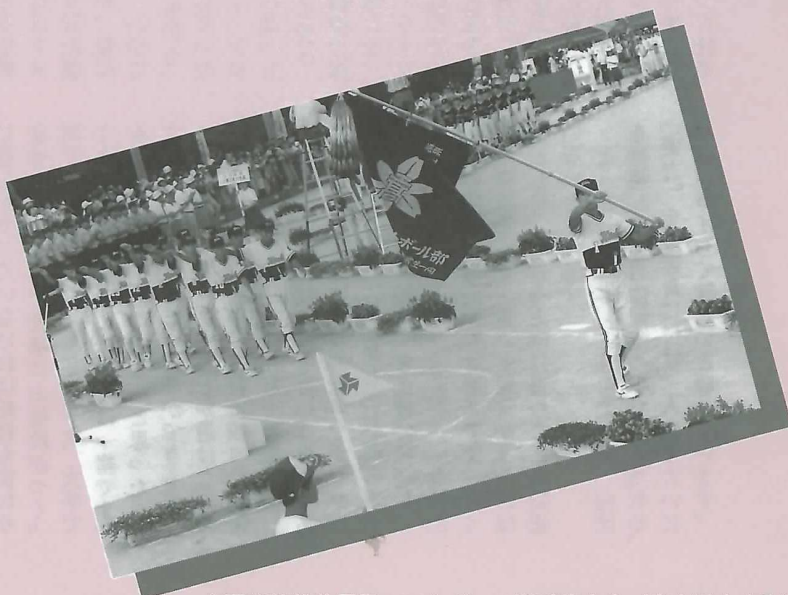
福島県立郡山北工業高等学校

平成7年2月28日 第45号 発行所/〒963 福島県郡山市富久山町八山田字大林1 福島県立郡山北工業高等学校同窓会
☎0249(32)1199 発行者/先崎一郎 編集者/佐々木郁雄 発行部数/12,600部 印刷/㈱ヨシダコーポレーション



CONTENTS

同窓会会長あいさつ	②
同窓会定期総会を開催	③
企業内支部連絡協議会	④
学校長あいさつ	⑤
支部だより	⑥
生徒会だより	⑦
定時制について	⑦
部活動の活躍	⑧
進路指導	⑨
平成5年度決算報告	⑩
平成5年度基本金報告	⑩
平成5年度新会員報告	⑩
トレーニングセンター建設資金収支決算報告	⑩
お知らせ	⑪



全国高校総体男子ソフトボール選手権大会 (富山県立山町)

大きく変化する これからの雇用形態。

同窓会会長 先崎 一郎



戦後五十年、これまで日本経済の発展を支えてきた、すべての「仕組み」や「構造」が、いま抜本的変革を迫られています。それは、「部分的な手直し」の程度で済むものではなく、一度すべてをぶち壊してゼロから作り変える、まさに「破壊と創造」の荒治療で対応していかないと「衰退する過去の経済大国」になりかねないほどの、大転換期を迎えているのです。さらにこの変化は、国のみならず、企業や個人にも

及んでくることは避けられません。そんな厳しい、難しい時代の節目に、実社会へ出ていく皆さんを、私は「同情」よりむしろ「羨望」の眼差しで見えています。なぜなら大きな時代の転換期には、過去の経験や実績が、むしろ邪魔にこそなれ、役に立たないからです。つまり、ゼロからスタートする皆さんの方が、はるかに有利な立場になり得るからです。

しかし、ただ漫然とした意識で仕事をしているのは、世の中の変化を味方に付けることはできません。「本質的に何がどう変わるのか？」しっかりと自分自身で見極め、認識し、個人としても積極的に「変化対応」に立ち向かわなければ、新しい時代の勝者として生き残ることは難しいでしょう。そんな観点から私は、ビジネスの世界に身を置く先輩の一人として、少しばかり問題の本質と、心構えについてお話し、卒業のはなむけにしたいと思います。

「これからのサラリーマンはどう生きるか？」といった内容の正月TV特集で、経済評論家の日下公人氏が、『日本企業は生産現場でアジアに負け、本社はアメリカに負けた。』と、極めて的を得た表現で、現状を説明をしていたのが、私は大変印象に残りました。つまり、かつて物作りにおいては「世界一良いものを、世界一安く提供できる」と自負していた日本国内の製造業は90年代に入り、アジアの発展途上国による安い賃金の追い上げと、急激な円高の影響を大きく受け、ついにコスト競争に負け、生産拠点の海外移籍に伴う空洞化現象が、深刻になってきている事実と、もう一つ、マネージメントの面で80年代「日本はもはやアメリカから学ぶものはない」と大見栄をきっていた、いわゆる「日本の経営」が「アメリカ的経営」に惨敗した事実です。米国企業は、日本企業が有頂天に酔っていた時期、競争力復活のため、大胆なりストラや生産システムの見直しを断行し、体質改善、体力向上に成功しました。勿論それに伴い、政府も思い切った経済

金融政策で支援したことも日本の大きな違いです。

さて、それでは「アメリカに負けた日本の経営」の最も象徴的なものと言えば、それは「終身雇用」「年功序列」「企業内労働組合」の三つですが、特に前者の二つが崩壊寸前にあることは、もう誰もが認めざるを得ません。そして、このことは皆さん方にとってどんな意味を持つのか？ということですが、わかり易く言えば、これからの雇用形態は、年毎に会社と個人が「契約更新」をして、その年の「年俸」を決めるようになるのではないかと思います。そして、同じ仕事を、同じ量しかやっていないければ給料も変わりません。つまり、仕事にお値段がつく。同じ仕事なら男性でも女性でも、大卒でも高卒でもお値段（給料）は一緒です。もっと給料を上げて欲しいと思ったら、さらに一段上の難しい仕事ができるように、キャリアアップするしか道はないのです。しかし、仕事の内容に較べてお値段（給料）が安ければ、もっと高く出してくれる他の会社に移るという自由もある訳です。まさにプロの世界です。だから、個人も常に自分がどの程度の実力か？その「市場価値」を正確に把握しておく必要があります。そして、「会社と個人の関係」は全くフェアです。こうした雇用形態を、良いと思うかどうかは別として、こんな方向に進むことは間違いないと思います。

どうか皆さんも、こうした変化、現実を直視して、自由競争の中で生き残れる、「実力」を是非身に付け、人生を大いにエンジョイして欲しいと願っています。



アトラクションに“ギター詩人”高野太郎氏を招く 同窓会定期総会を開催！

福島県内はもとより、各地の実業界へ多くの卒業生を送り出している我が校の、平成6年度同窓会定期総会は、6月4日午後5時から郡山市虎丸町のホテルはまつに於いて開催され、来賓を含めた約320名が出席した。

冒頭あいさつに立った先崎会長は、日頃から大変お世話になっていている会員及び各社を激励し、同窓会に対する理解に深い感謝の意を表した。また、同窓会活動を活発化するために、発足した企業内支部についても、より充実させて将来は50支部に組織の拡大を図りたいと抱負を述べた。この中で、「年会費の協力をいただくことで企業情報を満載した企業内支部紹介誌の発行と、同窓会組織の拡大強化を進めながら、企業側の期待に答え学校側との懇談会を開くことで求人活動の支援をさせていただいた。

それにつけても、財政基盤、組織基盤をしっかりと作り上げなければならぬ。



い。それが会の発展の一番の基本になる。今年はそのいう意味で基盤整備の仕上げの年と考えて、皆様はじめ学校側の更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。」と相互協力を求めた。

つづく議事は、庶務報告、決算報告、監査報告、平成6年度予算、事業計画などの議案を審議、承認可決し総会を終了した。

昨年に引き続き、地元経済界を代表して郡山商工会議所会頭で、(株)ヨークベニマル相談役の大高善兵衛氏より、こころ温まる講演をいただき、本校同窓生を激励した。

今年も、アトラクションとして“ギター詩人”高野太郎先生をお招きし、弾き語りと独特のトークで会場を魅了した。先生は、本校の前進校である旧郡山工業高校の電気科を35年度に卒業し、現在も、歌手としてコンサート活動のかたわら作詞作曲家として活躍中である。

アトラクション終了後、小林清三PTA会長のあいさつがあり同窓会相談役植田英一氏(県議)の発声で乾杯した。来賓企業の方々旧職員や恩師を囲んでの祝宴はなごり尽きないまま盛会のうちに閉会した。



情報誌
“可能性を信じろ”
発刊

第4回

企業内支部連絡協議会



平成3年4月に同窓生の多い企業内に設立された企業内支部の第4回連絡協議会は、平成6年6月27日ホテルはまつに於いて行われ、企業側の代表と、企業内支部長、副支部長ら50名に加えて、学校側からは、北原学校長、教頭、事務長、各科主任、3学年担任、進路指導主事など20名に同窓会三役の総勢80名が出席した。

はじめに、先崎同窓会会長より、学校側と企業側にお礼の言葉が述べられ、また次のような抱負が語られた。

「現在、人不足時代から人あまり時代、求人難から就職難時代へと大きく変わってきています。そのような状況の中で、企業側に財政的支援（年会費）をお願いしてきたわけですが、退会する企業が増えるのではないかと、心配や意見もありましたが、同窓会の一環頼りになる企業内支部をつくりあげないかぎり、いつまで経っても同窓会の組織がしっかりしない、そう考え、本当に長期的にお付き合いのできる企業に絞り込んでみよう、あえて財政的なお願いをしたわけです。今残ったところの企業内支部が、本物だなと私は思っています。」

なお、年会費5万円のうち20%程度は同窓会の活動に当て、残りは企業内支部

情報誌の発刊であるとか、企業側と学校側との懇談会などに有効に使わせて頂きたいと考えています。」

引き続き、北原学校長より学校の現況についての報告があり、進路指導主事の高久田先生からは平成5年度の生徒の進路状況と平成6年度の進路希望状況についての話が、各企業側からは具体的ななりクルト状況についての発表がなされ参加者は熱心に聴き入った。

なお、企業内支部連絡協議会の主たる事業であった各企業の情報誌「可能性を信じろ」が6月1日に発刊され、席上事務局よりその旨の報告がされた。この情報誌は、会員企業はもとより3学年生徒全員と学校の先生方に配布され、就職活動等に大いに利用できるものと喜ばれ、生徒の中には、「こんな会社がある！」とか「この会社に先輩がずいぶんいるな！」というような声がたくさん聞かれた。

最後に、原稿をお寄せいただいた各企業及び広告掲載の協力をいただいた各位に厚く御礼を申し上げ第2号、第3号と続くことを念じる次第です。

■企業内支部新規加入のお誘い

50支部に組織拡大

現在40支部ある企業内支部を50支部に組織の拡大を図りたいと考えています。企業内支部の設立は今後の同窓生の組織化と活性化をめざし、会員の融和と企業内における意思疎通をはかり後輩育成及び定着化、新卒者の受け皿づくりとして学校側との連携をより強くするために発足をしました。どうか趣旨をご理解いただきまして、ご協力をお願い申し上げます。



なお、設立及び左記事項につきまして、ご不明な点がございましたら事務局まで一報下されば意を尽くしたいと存じます。

記

- 一、年会費5万円
- 二、活動内容
 - (一) 企業内支部情報誌の発刊
 - (二) 連絡協議会及び懇親会の開催
 - (三) 母校への支援

大きくはばたけ



校長 北原 正三

同窓会の皆様方には、本校発展のために多面にわたり、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

さて、私は平成六年四月に本校に着任いたしました北原正三です。どうぞよろしくお願い申し上げます。着任以来、同窓会長さんはじめ役員の方々、ならびに各支部の皆様方、とりわけ日立支部の皆様には支部総会に参加させていただき日立関連企業の見学、総会、懇親会と、楽しいひとときを過ごすことができました。ここに改めてお礼申し上げます。

本校の歴史でございますが、昭和五十二年に県立郡山工業高校と県立郡山西工業高校が統合により郡山市富久山町八山田に開校されました。開校に先立ち生徒、教職員も新たな出発の中から伝統をつくるため「調和」のとれた「創造」性豊かな「特色」ある中型技術者の育成を目指すために「調和・創造・特色」を校訓としています。本校は機械科、電気科、電子科、

情報技術科、建築科、化学工学科そして新たに「環境システム科」を設置し全日制7学科十クラス生徒数千二百名、教職員百二十四名と定時制は工業科（機械コース、電気コース）一クラス、生徒数七十五名教職員二十三名であります。なお本校の、施設・設備は充実しており、県の工業高校の基幹校として、いや、東北地区有数の工業高校として、優秀な技術者の育成に努め、今や日本の工業界のみならず世界の各地において、あらゆる分野で活躍しています。子供たちも先輩に追い付きやがて追い越す気迫に燃えています。また、各種資格取得にも積極的に挑戦してその成果を上げており、運動部においては東北大会、全国大会に出場する部も多く、文化部においても全国大会が増えてきておりその活躍が期待されています。

次に新事業についてお知らせいたします。平成7年度に第一回生の入学するものが新設学科「環境システム科」であり、機械科三クラスを二クラスに減らしました。

この新設学科は新時代の要請にこたえると共に、本県にも是非設備系学科の設置をして欲しいとの業界の要望があり実現の運びになりました。

この学科は生活環境を豊にするための基礎的な知識や技術を習得し、設備工業およびその関連する諸分野において、空気調和、環境管理、ソーラシステム、防災、電気設備、給排水衛生、食品冷凍などの諸設備の計画、設計、管理、保全、ビル管理などの業務に従

事する技術を身につけることをねらっています。

話は変わりますが、先輩の方にも是非お知らせし、今後共御協力をお願いしなければならぬ大事な事業として、創立二十周年は平成八年に当たります。今後は委員会等の組織をつくり、具体的事業内容について検討し者詰めて行くつもりでございますのでよろしくお願い申し上げます。

最後に先輩諸氏にお願いがございます。来る三月一日を期して本年度卒業生三百八十数名は、一斉に大空に向かって飛び立ちます。真実一路目標に向かい一直線で飛び続けることはありません。海に落ち、川に寄り道する者、道草を食う者、いろいろな迷いがあります。そんな時には「やさしく、厳しく」指導してください。彼らはきっと大きく成長し、二十一世紀を主体的に生き抜く青年になっていることを信じます。



支部総会開催

日立支部では恒例の行事である支部総会を新緑の、風薫る平成6年6月10日(金)に実施した。本総会には学校側から北原校長先生、外山先生、同窓会本部から増子副会長、さらには水戸支部から熊田理事をお招きし、平成6年に日立支部の新会員となられた6名の新入会員の歓迎会を兼ねて盛大に行われた。本総会には多数の会員が参加し、第一部



総会(第二部)懇親会にて構成し、総会では日立支部の一年間の経過報告、そして42年間の長きに渡り日立支部長として活躍された支部の統率、又学校側及び同窓会本部との良好な関係維持発展に多大な功績を残された山川氏が会社生活に別れをつけることになり、日立支部長を退くことになりました。このため新支部長に七海氏を満場一致で選出し、今後の山川氏の活躍と新支部長のもと日立支部が新たな気持ちでますます発展することを誓い合った。ひきつづき懇親会に入り来賓の方々より温かいご祝辞を頂いた後、新田副支部長の乾杯で宴会に入った。宴もたけなわとなり母校や故郷の近況報告に話はずみ、最後に校歌を斉唱し盛会の内に散会した。

さらには恒例となっている新入会員との懇親会を平成6年5月20日、激励と懇親を兼ねた支部役員との交流会を持った。会では日立の組織の一員として立派に活躍していること等の報告があり、先輩としてののめりかぎりで同窓生としての繋がりをなお一層強くした。



◆東京支部長小野寺昭氏・幹事大河原勝夫氏の両名
毎年実施されている関東地区就職者懇談会が平成6年7月22日東京上野の精養軒に於いて開催されました。この会は、郡山北工進路指導部の主催で、就職者の悩みなどの相談事を聴いたり、お互いの情報を交換することで問題解決をし、また、今後の進路指導の一助にすることが目的であります。学校からは進路指導主事の他、卒業生の学級担任と科の主任の先生など12名、同窓会からは東京支部を代表し、支部長小野寺昭氏と幹事の大河原勝夫氏の2名、卒業生80名の総勢94名が出席しました。はじめに、北原校長より学校の近況報告を含めたあいさつがあり、続いて、小野寺支部長があいさつに立ち「毎年、

い中、北原校長先生を初め多数の先生方との懇談を頂いた。さらに今春の卒業生から日立支部関係に就職内定した2名の生徒の面談もさせて頂き会社の現状等を説明し又種々の質問に答える形式で行った。生徒達が来日立する時は日立支部会員がお出迎えすることを約束し帰路についた。今年も国体の年で磐越道の高速道化等と相俟ってこれからも交流を盛んにし同窓会本部及び学校側との繋がりをより密にしたい。

東京支部

関東地区就職者

懇談会に出席

このような会を開いていただき、また、ご招待を賜り先生方に厚く御礼申し上げます。東京支部では、2年に一回支部総会を開催しています。また、必要に応じて後輩達の悩みなどを聴く相談会を開いております。どうぞ、遠慮しないで相談し、そして支部活動には積極的に参加することをお願い致します。」と述べた。





九月、役員選挙で、本校初の女性生徒会長（浦川千恵（建二））以下、十五名の新役員が誕生しました。周囲からの期待も大きいようで、今後の活躍を期待します。十月、ソフトボール部が、三年連続春の全国大会出場権を得、さらに、本校主力の愛知国体では、見事準優勝に輝きました。来年度の福島国

今年度の生徒会活動状況について、記録を辿りながら総括してみたいと思います。
四月、四百名の新入生を迎え、今年度がスタートしました。五、六月の高校総体予選では、参加部が全て県大会に駒を進め、さらに、ソフトボール部・陸上部・ソフトテニス部が全国大会出場を果たしました。
七月、校内体育大会が、晴天の中三日間行われ、各種目共好プレーが続出し、クラスの親睦と団結が図られました。機械科三年一組が圧倒的な強さで総合優勝しました。夏の高校野球県大会では、学法福島高に惜敗し、今年も甲子園の夢は実現できませんでした。

体では、是非優勝して欲しいと思います。
十一月、校内ミニ文化祭が二日間開催され、学芸コンクール等、どの催しも盛況で、来年度の北嶺祭への大きなステップになったと思います。学芸関係では、電気部とコンピュータ部が、生徒研究発表及び、プログラミングコンテストのそれぞれ全国大会において、優良賞を受賞し、機械科の渡辺大介君の全種目満点の一級合格（計算技術検定）や、吹奏学部のマーチング東北大会出場など、活躍が目立ちました。一月、福島国体冬季大会が、地元郡山市で開催され、本校からはスピードスケート、アイスホッケーに出場し、全国の強豪相手に善戦し、吉田満君が一万Mで入賞を果たしました。
来年度は、福島国体・夏季・秋季大会が開催されます。本校から、数多くの参加者が出て、活躍されることを祈念します。

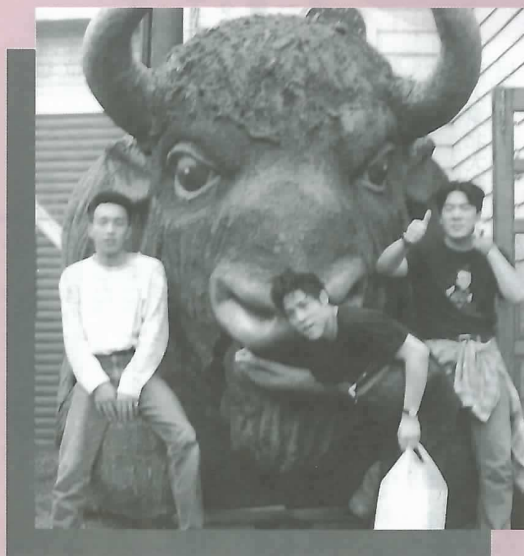


生徒会顧問 二瓶 益幸

生徒会だより

てい・じ・せい・に・つ・い・て

生徒会顧問 佐藤 恭



同窓会の先輩各位の母校に対する熱意にはいつも胸が熱くなるのを感じます。

定時制は郡工時代から数えると36年になります。低成長・円高時代では、かつてのような輝かしさは望めませんが、地元の産業を地道に支える力を育てるため、働きながら学ぶ公教育機関は見直されるものと思います。

少子時代でおっとりや育ち、叱咤激励に耐え努力を惜しまないタイプの生徒は少数派になりつつありますが、案外素直なのも事実です。写真は遠足のスナップですが、この屈託のない姿を見るにつけ「ぜひ北工魂を」と思います。

北工創立20周年は一つの画期になってほしいものです。危険物や電気工事士など資格取得。常連のソフトテニス・柔道のほかに、今回惜敗した野球・バレー・バスケットの全国大会出場。これら、授業以外にもねりたいものです。

今後ともご支援のほどお願い申し上げます。

ソフトテニス部

6年6月、堀越(情3)・國分(機3)組は、決勝リーグ得失セット差で、岡田・松本(電2)組は、ベスト8をかけた、最終セット、2-6からの大逆転で富山インターハイの出場権獲得。

この粘りの強さは、北工の良き伝統に支えられたものであり、先輩諸氏に感謝しながら、今後も「夢と希望」をモットーに頑張っていきたいと思えます。

(顧問 吉田迪徳)



バレーボール部

有望な選手を含め、新入生十名を迎えて、生徒達は一生懸命練習に励んだが、今年の生徒達は例年になく故障者が多く、苦しい大会の連続であった。主な大会の成績は左記の通りです。

- 高校大会県南予選 優勝
- 県高校大会 ベスト8
- 県南選手権 三位
- 新人大会県南予選 優勝
- 県高校新人大会 二回戦敗退
- 県総合体育大会県南予選 優勝
- 県総合体育大会 ベスト8

(顧問 安斉博)

陸上競技部

男子四十名女子五名計四五名の部員であります。インターハイ、全国駅伝を目標に、毎日々の練習の積み重ねを大切に練習の励んでおります。

六年度は一年生の菅野卓弥君が棒高跳で東北大会二位、インターハイ出場を果たしました。他の部員もそれぞれの目標に向かって頑張っておりますのでOBの皆様今後ともご指導ご支援のほど宜しくお願いいたします。

(顧問 御代田 喜友)

水泳部

北工水泳部創設以来の悲願であった県大会での総合入賞を今期果たすことができました。部員全員で青森県での東北大会に出場してきた。

部の活動の活躍

今期の主な大会での結果は次の通りです。

◎高体連県大会

- 男子総合第6位
- 四〇〇Mリレー 第4位
- 八〇〇Mリレー 第4位
- 二〇〇M自由形 第6位
- 秋元 聖 電子三年 第6位
- 四〇〇M自由形 第6位
- 秋元 聖 電子三年 第5位
- 一〇〇Mバタフライ 第5位
- 佐藤智昭 情報一年 第4位
- 二〇〇Mバタフライ 第4位

情報一年 佐藤智昭

◎新人戦県大会

- 新人東北大会出場(岩手) 一〇〇Mバタフライ 第3位
- 佐藤智昭 情報一年

今後は、平泳ぎや背泳ぎの選手の育成を重点的に行い、さらに上位入賞を目指したい。

(顧問 田中 潔)

ソフトボール部

春の全国選抜大会に出場し、一回戦熊本県東海大第二高校と対戦し、おしくも敗退してしまいました。夏には、富山県立山でおこなわれました全国高校総体に出場し、一回戦春の選抜の覇者、大阪府

清風南海高校と対戦し、善戦しましたが敗退という結果となりました。

秋から新チームになり、一年生ピッチャーの好投と攻撃のバランスがとれ、県新人戦・南東北大会で優勝し、三年連続七回目の全国選抜大会の出場権を獲得しました。

また、北工を主力チームとする福島選抜少年男子が、わかしゃち国体におきまして、準優勝し、福島国体に向けて大きな自信となりました。

現在、全国選抜大会初戦突破と福島国体優勝を目標として頑張っております。今後とも、ご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

(顧問 新井一郎)

スケート(スピード)愛好会

この会が発足して3年が過ぎ去ろうとしています。みなさんの御支援により1人の卒業生を送り出す事ができました。

今年度は県高校総体でアベック優勝をし、インターハイ、ふくしま国体へと多数の生徒を送り込む事もでき大変充実した1年となりました。次年度も新たな目標を掲げ邁進していきますので今後共よろしくお願致します。

(顧問 菊池由喜男)



進路 指導

本校の進路状況の 移り変わり

進路指導主事 高久田 稔

本年度の日数も残り少なくなって来ましたが、昨年度に増して厳しい状況の中での進路指導でしたが、どうにか例年並みの内定率を得る事が出来ました。「厳しい状況」を具体的に知ってもらう為に三年間の本校の進路指導の移り変わりをまとめてみました。

1. は3年間の同一日で比較した求人件数の変化です。男女とも確実に減少しています。
2. は主要産業別の求人率の変化です。県内外共、製造業が減少しています。

3. は3年生の進路希望ですが、就職、進学共それ程の変化は見られません。

4. は内定した3年生の進路先別の割合です。進学率が2割を超えるようになって来ましたが、平成6年度は大学合格者が過去最高の18名となりました。

5. は10月末現在での内定率の変化です。平成4年度と同じ内定率になるまでに今年度は平成7年の1月までかかっていますので、この事だけでも厳しさが理解出来るでしょう。

—平成4年度から平成6年度まで—

1. 求人件数の移り変わり

(10月31日現在)

年度	県内		県外	
	男子	女子	男子	女子
4年	650	124	2424	181
5年	622	65	1726	95
6年	416	57	1073	89



2. 主要産業別求人率

①県内 () 女子 (10月31日現在)

年度	建設	製造	電気ガス	運輸通信	卸小売	サービス
4年	14% (10%)	53% (63%)	0.5% (0%)	3% (2%)	19% (13%)	9% (11%)
5年	20 (19)	45 (46)	1 (0)	2 (0)	17 (9)	10 (26)
6年	26 (11)	41 (47)	0.5 (0)	0.5 (5)	19 (18)	13 (19)

②県外 () 女子 (10月31日現在)

年度	建設	製造	電気ガス	運輸通信	卸小売	サービス
4年	16% (13%)	46% (51%)	0.2% (0%)	5% (6%)	11% (20%)	22% (10%)
5年	22 (21)	43 (50)	0.5 (0)	5 (0)	12 (14)	13 (15)
6年	23 (15)	33 (34)	2 (0)	3 (2)	20 (29)	19 (20)

3. 進路希望の移り変わり () 女子

年度	就職		進学	
	県内	県外	大学・短大	専門学校
4年	53% (61%)	24% (22%)	10% (8%)	13% (9%)
5年	56 (59)	21 (27)	8 (9)	15 (5)
6年	52 (54)	28 (35)	8 (5)	12 (6)

4. 進路先別内定率 (年度末6年度は1月末)

年度	就職		進学	
	県内	県外	大学・短大	専門学校
4年	57% (67%)	23% (18%)	5% (4%)	15% (12%)
5年	48 (62)	30 (27)	5 (3)	18 (8)
6年	57 (58)	26 (29)	6 (7)	11 (7)

5. 就職内定率の移り変わり (10月末現在)

年度	男子	女子	平均
4年	85%	93%	89%
5年	84%	83%	84%
6年	77%	75%	76%
7/1月	90%	88%	89%

平成5年度 基本金報告

1. 収入の部

項目	金額	備考
繰越金	4,697,471円	
本年度基本金	496,800円	828人×3,000×0.2
雑収入	35,744円	分配金・銀行利息
合計	5,230,015円	

2. 支出の部 0円

3. 残高 5,230,015円

・中国ファンド 5,178,635円
 ・定期預金 51,380円

平成5年度 新会員報告

全日制	
科	人数
機械科	115名
電気科	74名
電子科	34名
情報技術科	37名
建築科	40名
化学工学科	63名
小計	363名
定時制	
工業科	18名
小計	18名
合計	381名

平成5年度 決算報告

1 収入総額 4,993,178円
 2 支出総額 3,673,599円
 3 差引残高 1,319,579円

1. 収入の部

項目	予算額	決算額	増△減	備考
繰越金	123,258	123,258	0	
会費	1,257,000	2,400,000	1,143,000	(409+363+10+18)名×3000円
入会金	1,227,000	1,281,000	54,000	(399+10+18)名×3000円
会誌広告料	220,000	620,000	400,000	広告掲載料(31社)
北窓会助成金	300,000	300,000	0	北窓会からの助成金
雑収入	594,742	268,920	△325,822	名簿、総会残金、利息
合計	3,722,000	4,993,178	1,271,178	

2. 支出の部

項目	5年度予算額	決算額	増△減	備考
基本金	496,800	496,800	0	828名×3000円×0.2
特別基本金	0	0	0	
会議費	300,000	637,930	337,930	三役会、幹事会など
事務費	50,000	20,511	△29,489	フィルム、写真など
慶弔費	400,000	237,874	△162,126	饗別、賞品、香典など
通信費	600,000	704,508	104,508	会報送料、葉書、切手
旅費	250,000	230,650	△19,350	日立・東京・仙台支部
会誌編集費	570,000	460,822	△109,178	会報印刷
渉外費	155,000	273,578	118,578	関係機関との渉外諸費
卒業生諸費	400,000	300,926	△99,074	卒業記念品、名簿印刷
事務局費	160,000	160,000	0	事務局
工業祭	0	0	0	
支部助成金	150,000	150,000	0	東京支部
学校案内助成費	100,000	0	△100,000	
予備費	90,200	0	△90,200	
合計	3,722,000	3,673,599	△48,401	

差引残高 1,319,579円は次年度へ繰り越します。

トレーニングセンター建設資金収支決算報告

1 収入総額 42,038,302円
 2 支出総額 42,038,302円
 3 差額残高 0円

1. 収入の部

項目	決算	備考
市補助金	2,000,000	郡山市
企業・同窓生寄付金	27,819,381	篤志寄付金等含む
同窓会基本金取り崩し	5,000,000	
部活動後援会等補助金	5,240,607	
現・旧教職員寄付金	920,000	
P T A バザー益金	868,501	
雑収入	189,813	預金利息
合計	42,038,302	

2. 支出の部

項目	決算	備考
建設費	38,241,231	工事代金・トレーニング器具・ネット
備品費	491,301	シューズケース・ホワイトボード
編集費	1,818,196	趣意書・名刺印刷、テレホンカード
事務費	189,109	タックフォーム、インクリボン
記念祭費	75,043	記念品、地鎮祭用供え物
通信費	932,555	郵送料、切手、封筒
会議費	290,867	役員会、三役会
合計	42,038,302	

差引残高 0円

日教済指定工場

忘れません、思いやり!
 民間車検場

有限会社

三善自動車工業

〒963 郡山市富久山町福原字中田14
 PHONE.(代)22-5088 FAX.22-5625



ナポレオン印のあぶらみそ 2+入 1,200円
 ナポレオン印の絡みみそ 2+入 3,000円

我がCGに不可能はない。



印刷線材総合販売・電子画像処理・シルクスクリーン
株式会社
ヨシダコーポレーション

本社 / 〒963-07 郡山市田村町上行合字北川田22-1
 ☎0249(42)0005 FAX0249(42)2233

●ヨシダの手造りみそそのご注文は、電話・FAXまたはハカキによって承ります
 TEL0249(42)1101 FAX0249(42)2233

同窓会員名簿発行の お知らせ

平成8年10月に発行予定

郡山北工創立10周年の記念事業の一つとして昭和62年に同窓会員名簿が発行されて10年が経とうとしております。その間、会員の移動、新規会員の入会等により新しい名簿の発行の声が聞かれるようになりました。

つきましては、創立20周年（平成8年）の記念事業の一つとして発行したいと考えています。

発行に際しては、会員の皆様には必ず同窓会長名でご案内、また住所等の確認の通知をさせていただきます。昨今同窓会の名を語り、電話による住所等の確認や葉書による名簿発行販売などの被害報告もあり、また、今後考えられることでもありますので、十分ご注意下さい。

なお、ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

弔 高野 和雄氏

同窓会幹事の高野和雄氏は、平成6年9月4日病氣のため62歳で
ご逝去されました。

高野氏は、昭和25年度母校機械科の卒業生で、社会科の教師として北工にも勤務され、安積女子高校を最後に定年退職されました。永年に亘り同窓会の幹事として、大変尽力を頂き、その功績は大いなるものがあつたことは言うまでもありません。最後に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

～同窓会定期総会開催のお知らせ～

平成7年度定期総会を下記のように開催いたします。
多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 日時 6月3日(土) 午後5時より
2. 場所 ホテルはまつ (郡山市虎丸町)
TEL (0249) 35-1111
3. 会費 5,000円 (平成6年度卒業生は3,000円)

※詳細については同窓会事務局へお問い合わせ下さい。同窓会事務局 (郡山北工内) TEL (0249) 32-1199



弱電部品製造・精密金型製造、販売
株式会社 ザイン

代表取締役 鈴木 廣 哉 (昭和40年度機械科卒)

〒963 福島県郡山市富久山町福原字宝田46番1
TEL (0249) 34-0699
FAX (0249) 22-7403

工 作 機 械 作 業 工 具
板 金 機 械 測 定 工 具
熔 接 機 材 研 磨 材

株式会社 **伊藤商店機材部**

代表取締役 伊 藤 シク子

〒963 郡山市菜根5丁目21番13号
電話 郡山 0249-33-0611(代表) FAX 郡山 0249-34-7113

建設資材総合メーカー

kyo 株式会社キョウエイ

代表取締役会長 猪越 幹雄 (昭和30年度機械科卒)
代表取締役社長 高橋 敏夫

本社/〒962-04 福島県須賀川市大字清川字中津沢46-1 TEL.0248-75-0215(代) FAX.0248-75-1789
札幌営業所/〒065 北海道札幌市東区伏古2条5丁目1-18 TEL.011-786-8811(代) FAX.011-786-8812
仙台営業所/〒983 宮城県仙台市宮城野区郡町三丁目10-1 TEL.022-239-2171(代) FAX.022-239-2174
千葉営業所/〒263 千葉県千葉市稲毛区小深町47 TEL.043-422-1906(代) FAX.043-422-6639
●工場/苫小牧・郡山・須賀川・鏡石・千葉・群馬●配送センター/須賀川・関東

●カーコンサルタント

株式会社 今川

代表取締役 今川 直彦 (昭和34年度機械科卒)

本社〒963-01 郡山市安積町荒井東前田37-3 ☎(0249)45-1623(代)
車検センター 郡山市安積二丁目184-1 ☎(0249)45-8300
成田工場 郡山市安積町成田字高田47 ☎(0249)45-2478

営業品目

火災報知設備・構内交換電話設備・消火設備・
防火排煙設備・非常用放送設備・テレビ共聴設備
消火器・防犯設備・以上に附帯する一切の業務

田村通信防災工業株式会社

代表取締役 増予 久治 (昭和42年度電気科卒)

郡山市安積町荒井字下北井前4-1
☎(0249)45-2882(代) FAX(0249)46-2875

株式会社 清水工業

取締役社長 清水 善一 (昭和31年度建築科卒)
一級建築士第46405

〒963 福島県郡山市西ノ内一丁目11番7号

☎(0249)32-4318(代)
FAX(0249)33-2196

県建設業登録許可番号(特-5)第3537号
須賀川市水道工事公認店

給排水・給湯・衛生・冷暖房・空気調和設備工事

IS 春日設備工業株式会社

代表取締役 春日 力 (昭和40年度建築科)

福島県須賀川市堀底町18
☎(0248)76-2131(代)
☎(0248)76-2132

ビュープラザ店(婦人服・ハンドバック) 郡山市中町3-1ビュープラザ1階 ☎24-1144
希ヶ丘店(袋物・靴・アクセサリー) 郡山市富田町大徳南アーデン内 ☎52-0511



事務所 郡山市中町3-1 ☎0249-32-2140

今泉 善治 (昭和26年度機械科卒)
今泉 善英 (昭和31年度建築科卒)

精密金型設計製作・金属プレス精密加工・静電塗装・植毛・シルク印刷
部品組立・木工製品製造・パーツから組立完成までの一貫加工メーカー

AT 石橋工業株式会社

代表取締役会長 石橋 隆純
代表取締役社長 石橋 邦勝 (昭和33年度機械科卒)
取締役管理総部長 桑名 武義 (昭和35年度機械科卒)

郡山市安積町成田字三渡1 TEL (0249) 45-3411 FAX (0249) 45-0176
関連事業 アクト技研㈱ N Cワイヤー、レーザー加工 TEL (0249) 47-3690
よもぎ塾 <離れ 石橋亭、松嶺亭、四季亭> TEL (0249) 84-2671

鋼構造物製作

福島県知事許可(般-2)第2528号
全国鉄構工業連合会・鋼構造物製作工場認定第02.M.6018号

STEEL WORK PLANNING BIXCEL 株式会社ビクセル

代表取締役 橋本 保一 (昭和35年度機械科卒)

本社工場/福島県郡山市田村町上行合字下川原97番地
電話0249(44)3213(代表) FAX0249(44)3218

<確かな技術が未来を築く>

火力発電プラント・各種プラント設計製作

東陽工業株式会社

取締役社長 大塚 正博 (昭和30年度機械科卒)
取締役 落合 弘 (昭和32年度機械科卒)
〒969-11 福島県本宮町青田字花掛20番地
☎(0243)34-2730(代)
☎(0243)33-3790

TEP

株式会社 東北エントープライズ

取締役社長 先崎 一郎 (昭和31年度機械科卒)

本社 ●福島県郡山市開成4-8-15 〒963 TEL.0249-33-2555(代) FAX.0249-23-2555
仙台支店 ●仙台市青葉区立町20-10(ピースビル西公園4F) 〒980 TEL.022-265-6382(代) FAX.022-265-6395
■空気調和設備、給排水衛生設備の設計・施工および保守管理

1級建築士事務所

KAGA 株式会社 香 設計

代表取締役 今泉 義明 (昭和36年度建築科卒)

〒963 福島県郡山市富久山町久保田字久保田100番地1
TEL 0249-24-0005(代)
FAX 0249-23-5487

建築設計監理

MUA

有限溝井宇一建築事務所

代表取締役 溝井 宇一 (昭和41年度建築科卒)

福島県郡山市安積2-69 安積ビル301
TEL (0249) 46-3575
FAX (0249) 46-6956